芸術と出会う 秋

今号では芸術の秋にちなんで、中野を拠点に活躍する二つの団体
「東京演劇集団風」と「和太鼓 暁」を紹介します。

広報係／4階　☎(3228)8805　FAX(3228)5645

1 東京演劇集団 風

東中野に専用劇場があり、30年以上の実績を持つ劇団。2019年、テアトロ演劇賞受賞。全国巡回公演や国際演劇祭の開催など、世界的に活躍しています。
同劇団で活動する方に話を聞きました。

▲江原さん演出のテアトロ演劇賞受賞作品「記憶の通り路」
（撮影：宮内勝氏）

誰でも気軽に来られる劇場でありたいですね

俳優・劇場企画部
柴崎美納さん

俳優・劇場企画部
工藤順子さん

劇場の建設から20年。ここが私たちのすみかだと感じています

レパートリーシアターKAZE
芸術監督・演出 **江原早哉香**さん

中野に劇場を造った理由は

都心からのアクセスが良く、地域の親しみやすい雰囲気が気に入り即決しました。
公演の合間には、周辺のお店に立ち寄り、地域の方と交流するなど、この場所で良かったと感じています。

どのような活動をしていますか

専用劇場での公演以外にも、小・中学校、高校を中心に年間180～200か所で公演を行っています。
公演後は舞台上で、大道具や音響設備などに触れてもらう時間を設けています。普段はあまり話をしないという子が、熱心に感想を伝えてくれることも。観客の反応から私たちも刺激を受け、学んでます。

最近の取り組みを教えてください

今年2月、風の代表作「ヘレン・ケラー」を初めてバリアフリー演劇として上演しました。同月には、区内福祉作業所の知的障害があるみなさんを迎えての公演も。
この作品は、目が見えない方や耳が聞こえない方たちが一緒に楽しめるよう、演出などに工夫を凝らしています。見えない・聞こえない人にもやさしく、見える・聞こえる人にも新しい発見があります。
普段演劇を見ない方や見る機会のなかった方にも、他者や自分自身の新しい一面と出会うきっかけになったらうれしいですね。
これからも中野を拠点に、多くの方に楽しんでもらえる演劇を作っていきたいです。

新しい試み「バリアフリー演劇」を紹介

8月下旬～9月上旬にも上演された「ヘレン・ケラー～ひびき合うものたち」。舞台では、誰もが楽しめるようにさまざまな工夫が。その様子を紹介します。

開演前には劇団員が、舞台や客席の広さを手話通訳者とともに説明

俳優がそれぞれの役や着ている服、特徴ある靴音などを紹介します

字幕と舞台手話通訳、音声ガイドが場面を説明します

舞台手話通訳者が俳優と共演、笑いが起こることも。ともに舞台を作り出します

ヘレンが井戸水に触れる場面。舞台近くでは水しぶきがかかり、臨場感があります

終了後、観客は舞台に上がり、実際の大道具に触れたり俳優たちと交流したりできます

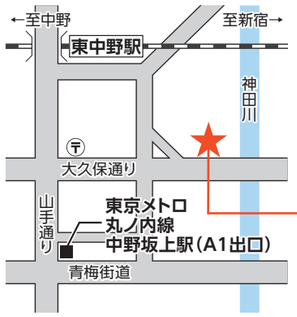
公演に寄せられた感想

私は耳が聞こえず、今まで台本をもらって見ることが多かったのですが、今回は内容が100パーセント分かり、また見たいと思いました。
（10代女性）

障害の有無に関係なく、全ての人に勇気を与える公演だったと思います。
（20代女性）

手話通訳者が舞台上で俳優と一緒に演技しながら通訳するスタイルに、これまでの固定観念を打ち破る感動がありました。
（60代男性）

ぎすぎすした世の中にあって、人に丁寧に接していくことの大切さを思いました。
（60代女性）



東京演劇集団風

1987年結成。1999年、東中野に専用の劇場をオープン。芸術監督は浅野佳成氏。代表は柳瀬太一氏。劇団員31人で、中野を拠点に精力的な活動を行っている。

レパートリーシアターKAZE（東中野1-2-4）
☎(3363)3261　FAX(3363)3265
HP https://www.kaze-net.org